

れる。下唇部は基本は暗褐色、尖つた前半は淡褐色である。上顎は地は暗褐色であるが、前基部はいく分淡い。下顎は外基部が褐黒色で、内前角に向ひ褐色になり、内縁と前縁内半は灰白色を呈してゐる。觸肢や歩脚は地が褐色で、濃淡があるし、暗褐輪などがある。腹楯の地は淡い褐黄色—乳黄色であつて、灰心褐輪の印刻が在る。更に各側の中印刻間の外方に夫々淡地の星斑を示してゐる。腹部下面は地が淡褐黄色であつて、6—7條の横溝の前の畝の後半位に汚れた不整の黒斑を有つてゐる。

附記—コツホ氏の原文には“背甲と上顎は褐黒色。觸肢と歩脚は黄色で、黒輪を有する。腹楯は革黄色であつて、暗赤褐色の小印刻がある”と出て居り、圖には腹楯中域の印刻間外方にあたつて、何等星斑状を描いてない。古い乾品を見たものらしい。それから、その標品の産地をブラジルとしてあるのは、何かの誤であると思ふ。

訂 正

本誌第二卷第二號の仲辻耕治氏「フィリッピン産トカゲ及び蛇に寄生せし壁蝨に就て」中に次の如く訂正の御申出がありましたので此所に正誤表を掲げます。

頁	行	誤	正
65	2	繪跗行脚の序に	繪跗行脚の際に
	9	出来ない種であるが	出来ない種類であるが
	10	Ambloomma (二箇所)	Amblyomma
66	18	(Neumann, 1899)	Neumann, 1899
	1	(Koch, 1844)	Koch, 1844
	2	右の學名を挿入する	A. dissimile Koch, 1844
67	4	眼と頸溝に各	眼と頸溝の間に各
	4	直の直徑だけ離れる	其の直徑だけ離れる

序に寄稿者の各位へお詫びとお願ひを申上て置きます。校正は入念にやつて居る筈ですが、何分一人で大意ぎでやる事ですから、時々誤植があつて申譯ありません。謹しんでお詫び致します。尙原稿は成るべく楷書で正確にお認め下されば校正も樂だし、誤植も少いと思ひますから、御執筆の時に御注意下さい。又前號の別刷の表紙に October, 1937 とすべきを July, 1937 と誤つたのは印刷屋の方で第2號の紙型を間違へて使用した結果とわかりました。不悪御容赦下さい。(植村利夫記)